社会福祉法人ゆたか福祉会広報

ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくんとみらいちゃん

2022
No.479

障害者のゆたかな未来をめざして 12

「私の作ったバケットおいしいよ」　あかつき共同作業所　木村 真悠さん　※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

▶ 私たちの実践～障害のある人の『働く』を支える～ …… P2～3
▶ 消費税の更正請求訴訟 …… P4
▶ きょうされん全国大会 in 東北・いわて開催 …… P6～7

2022年 12月10日 毎月1回10日発行　一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会　〒457-0852　名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356　FAX 052-698-7358　http://www.yutakahonbu.com/

愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会　検索

シリーズ 私たちの実践
～障害のある人の『働く』を支える～

第3回 リサイクルみなみ作業所「分かりやすい作業環境と作業方法の工夫」②

【事業と定員】
就労継続支援 B型―35名

前号では、分かりやすい作業環境作りや標準的な作業手順の整理、伝え方の工夫について紹介しました。今回は、利用者の理解度や作業を行う力の到達を把握し、次のステップへ繋げるために取り組んだ「分別アセスメントの実施」と「作業評価項目の見直し」について紹介します。

■分別アセスメントを通して

ラインにはペットボトルの他にさまざまな異物が混入して流れてきます。それぞれの違いを見分けて、適切に処分していくためには、分別の知識が不可欠です。職員は利用者が分別を行うにあたって、何につまずいているのか、その理解度を個別に把握する必要があります。しかし、稼働中の作業現場では職員も利用者の動きをじっくりと観察することは難しく、ひとり一人がどのくらい正しく分別を行えているのか正確に把握できていないことが課題となっていました。つまずきを把握することで、今より迷いなく分別作業を担えるようにそのポイントを支援していきたいと思いました。

まず、モニタリング個別面談を行う部屋に、ペール（分別用の箱）を現場と近い形で再現しました。そしてペットボトルに混入してライン上を流れてくる主な異物を利用者に渡し、正しいと思うペールへ入れ、分別の理解度を確認しました。

＜主な異物＞
・キャップがついたままのペットボトル、
・落書きがしてあるペットボトル、
・異物の入ったペットボトル、
・ビン、缶、
・プリンカップ、ソースやカルピス等のプラスチックボトルなど

障害支援区分5や6という方をふくめ、「ビン」「缶」は、ほぼすべての方が分別を理解していました。しかし、ペットボトルの資源化には、さらにその他の分別にも対応していかなくてはなりません。資源にできないため可燃として処理する異物入りや落書きのあるペットボトル、プラスチック製のボトルやカップについて理解が難しいことが分かってきました。

「あれ？Aさんってもっと理解できていなかった？」「Bさんってプラ容器のプリンカップだけがどうしても分かっていないのかな？」「Cさんはソースの入れ物は理解しているけれど、それをどこに分別するかが難しいんだね」等、今まで見えていなかった実態が明らかになってきました。

迷ったときには容器のリサイクルマークを確認したり、作業を繰り返すことで形状を覚え、より早く分別できるようにもなります。今以上に自信をもって積極的にラインに立てるように、「それが一人一人の個別の支援目標になるのではないか」と改めて個人の分別の理解度やつまずきに気づく機会となりました。

ただ、この分別アセスメントを現場と違う場所で行ったことで混乱してしまい、いつもの力を発揮できなかった利用者もいたようでした。そこで再度、現場に近い形でのアセスメントを実施しました。分別アセスメントをした後、プラボトルの特徴をつかんで、明らかに力を蓄えた利用者もでてきました。

今年度は取り組みを発展させ、「分別習得プログラム」として取り組みを行っています。早く取り分けるための手がかりとして、握った感触や、見た目が透明かどうかで判断している人もいて正しく分別することの難しさを実感しています。

目指すものは、曖昧で不安な部分をそのままにせずに、分かることで自信を持って作業に向かう利用者の姿です。今後もこつこつと取り組みを進めていきたいと考えています。

■作業評価項目の見直し

リサイクルみなみ作業所は1983年に設立された歴史のある事業所です。設立当初から利用者を働く仲間として位置づけ、働く権利を大切にしてきました。高工賃を実現しつつ、利用者にも年度昇給、有給休暇、退職金など福利厚生の仕組みが整えられてきました。

しかし福祉施策の変更や、事業所の移設など周辺状況が大きく変化するなかで、見直さなくてはならないこともでてきました。とくに作業（工賃）評価のあり方は大きな矛盾を抱えていました。利用者の作業実態を適正に把握して、支援内容を検討したり、工賃額に反映させることが課題でした。作業評価項目のなかには表現が抽象的なところもあり、職員の主観が入ったり、評価がブレてしまうことがありました。利用者の変化をていねいに考察していくために評価項目はなるべく具体的なものに見直すことにしました。

工賃の金額を決めるだけのものではなく、利用者一人ひとりの作業実態を把握し、支援にむすびつけていくためのものだということを職員間の共通認識にして検討を進めました。一人ひとりがどの工程を、どのくらいできるのか、どこに課題があり、どう支援するといいのかを確認して、実践につなげていくことを目指しました。

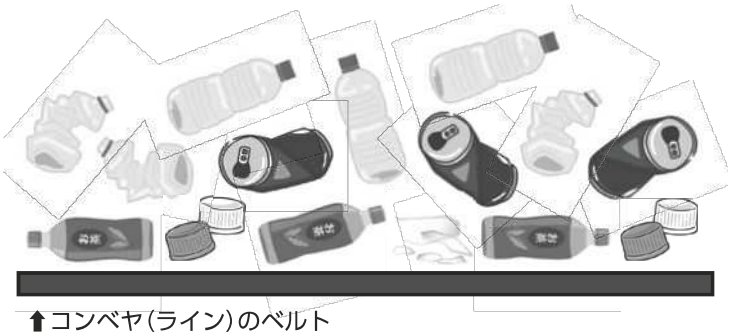
作業工程の評価項目を整理するうえで、まず異物を「探す」「見つける」「取る」ために必要な知識や動作を考えました。缶やビンなど分かりやすく見つけやすい異物もあれば、プラ容器のように形や色も様々で正しく分別するのには知識や経験が必要なものもあります。

ラインの底の方に沈んでいて、下までかき分けないと見つけられない中身入りや、細かな異物もあります。どこを見て作業するのか、手や腕の動かし方、範囲、体の向きといった作業に含まれる要素を取り出し、習得するプロセスを考えていきました。

またその工程について、生産数、時間、回数などを数値化しながら、どの程度の支援が必要か作業の自立度なども明らかにしてきました。そういった基準づくりに、職員集団で時間をかけて議論をしてきました。

年2回の個別支援計画のモニタリングでは、作業の状況を振り返り、課題を確認して本人の思いを聞きとりながら支援計画の目標を見直していきます。評価（アセスメント）と支援のサイクルがまわり始めたばかりなので、日々の作業の忙しさや、機械の不調、新型コロナウイルス感染状況の影響などもあって、思うように支援できず、計画通りにいかないときも多くあります。

しかし、工賃アップは自治会の要求であり、利用者の切実な願いです。私たち職員が真正面から向き合うべきテーマです。作業評価による一連の支援が、利用者の更なる働く力を伸ばし、働く意欲の向上につなげられたらと思います。



⬆コンベヤ（ライン）のベルト

★ベルトコンベヤの底の方に中身入りペットボトル、ガラス片、キャップが沈んでいます。

■おわりに

ご紹介してきた、リサイクルみなみ作業所の取り組みは現在も継続中です。どう展開させていくのか、職員はもちろん、仲間たちとも意見交換を行っています。働く仲間の様子から職員自身が学びを深め、地域社会から求められる資源化事業を担う一員としての成長を支え、共にこの事業に貢献していきたいと考えています。

リサイクル現場 職員集団

仲間たちの工賃に係る消費税の更正請求訴訟について No.2

事務長　宇川賢彦

何故、消費税更正請求を行ったのか

11月号でも説明をしましたが、私たちは2019年5月30日付で管轄の熱田税務署に対し、それまで納めていた、消費税の一部（工賃の部分）の返還を求める請求（更正請求）を行いました。

そのきっかけとなったのは、同年4月に発行された「週間税務通信」という税理士向けの専門誌に、元国税局消費税課課長補佐という肩書の方の文書が掲載されていたことでした。その内容は就労継続支援B型の利用者に支払う「工賃」が、消費税の仕入税額控除（納付する消費税から差引く金額）の対象になるか？という問いに対し、B型事業所で支払っている「工賃」は「役務の提供の対価」に該当する為、「仕入税額控除」で良いという回答でした。

ゆたか福祉会では、この前年度から「工賃」の支払額を「仕入税額控除」として計算し、消費税を納税していました。この記事が紹介されたことで、改めて私たちの消費税の納税方法が正しいと確認できたことから、前年まで誤って納めていた消費税額を更正請求（修正）して、払いすぎていた消費税を、返還してもらう手続きを準備していました。（時効がある為、過去5年分の修正だけ）

仲間の工賃が「役務の提供の対価」でないと、否定されたことを受けて

ところが、翌月に発行された同「週間税務通信」の記事には、同じ元消費税課長補佐が驚くことに、前言をひるがえし、「就労継続支援B型事業所」で支払っている「工賃」は「役務の提供の対価」ではないと述べ、「仕入税額控除」の対象にはならないと、訂正記事を投稿していたのでした。

その記事は、氏が前号で説明した内容とは全く違う論理を展開し、障害者の労働の価値を全く否定する内容でした。この説明は、もちろん私たちが同意できる内容ではありませんでした。しかもこの「週間税務通信」という機関誌が、全国の税理士の皆さんが目にする影響力のある専門誌であり、「黙って見逃しておくべきではない」という思いを強くしました。このような経緯もあり、私たちは2018年から遡った5年分の消費税の更正請求を、管轄する熱田税務署に行ったのでした。

仲間たちの労働の意味を問う訴訟

更正請求をした後の税務署の対応は、広報誌11月号で報告した通りです。名古屋国税不服審判所でも私たちの主張は認められず、請求は棄却されました。これらを受け訴訟に訴えるかどうかについて、私たちは法人理事会を中心に検討をしました。仲間たち（障害者）が作業所で働いてもらっている「工賃」は「役務の提供の対価」ではないというのが、当該税務署と国税不服審判所の対応です。

「役務の提供」の「役務」を国語辞典で引くと「他人のために行う労働」と解説しています。「役務の提供」を否定している税務署等の対応は、結果的に仲間たちの労働を社会に貢献していない価値のない行為としか見ていないことになります。

このことを私たちが認めるわけにはいかないというのが、訴訟にまで訴えている一番の理由です。仲間たちの真剣に働いている姿に日々接している者として、問題提起するのは当然と考えます。作業所で働く仲間たちは、労働者としては認められず、労働法規の適用から外され、社会的にも様々な不利益を受けています。このような状況下で、消費税法からも仲間たちの労働が排除されるのを黙って見過ごすことは出来ません。

実は、この就労継続支援B型の「工賃問題」は、全国一律の対応ではなく、各地の税務署によって判断は分かれています。実際、「工賃」を「役務の対価の提供」として認めている税務署もあります。前述の元消費税課課長補佐の記事も含め、税金を扱っている専門家と言われている人たちに対しても、仲間たち（障害者）の労働の意味を法的に問う訴訟として、社会的にも意義のあるものと捉えています。

新装版（復刻版）『ゆたか物語』発刊に寄せて

理事長　鈴木 清覺

この度、新装版（復刻版）『ゆたか物語』を発刊しました。この発刊は、先日亡くなられた鈴木峯保さんと、これから事業を担っていただく若い職員のみなさんに「この本を読み、ゆたか福祉会の歴史の原点をしっかりと学びふまえて頑張ってほしい」という思いから実現したものです。

本書は事業創設30周年を記念して出版されました。ゆたかの歴史を客観的に書いてもらおうと、愛知の民主文学を代表する佐藤貴美子さんに相談し、具体化しました。水野敬子さん、藤林和子さんにも加わっていただき、創成期を担った職員への2年余におよぶ丁重な聞き取りをもとに書き下されたものです。そうした成果として、大変読みやすく、歴史的背景も含めて理解しやすい書として仕上がっています。

50年前、障害者制度は未整備で社会の障害者への偏見や差別の激しい時代でした。しかし一方では世界でも日本においても、障害者問題への新しい人権保障と人間発達への思想と考え方が生起した時代でもありました。

創成期を担った若い職員は、こうした新しい息吹にも学びながら、障害当事者や家族とともに、地域や中小企業家のみなさんなど、幅広い人々と連携した運動を展開しつつ、障害者福祉の制度を創設し、事業の基礎を築いてきました。ぜひ関係者、とりわけ若い職員のみなさんにお読みいただきたく思います。

2022年度 保護者連合会研修会開催

今回の研修会は名古屋ガイシフォーラムを会場に、36 名の家族と職員を合わせて 40 名が参加しました。講師の後藤先生は「欧米に寝たきり老人はいない」の本を紹介し、お話をされました。

今回の研修会は、南医療生協かなめ病院前院長の後藤浩先生に「障害を持った方の終末期も含め、生命の話をしてほしい」とお願いに伺い実現しました。先生は長年ゆたか福祉会に関わり、障害者に対しての様々な困りごとや医療について取り組んでくださいました。講演の中で私が一番心に残った言葉は、終末期医療で「あなたがしてほしくないことは、私にもしないで。人生最後の医療は自分で決める」です。私もこのようにしたいと思いました。

ふれあい共同作業所　矢満田 佳代

先生は「昔は今のように医学が進んでおらず、家の中で静かに息を引き取っていた」「人として生まれ、人生を楽しむことが出来なくなった時に『死ぬ権利』ではなく『生きなくてもいい権利』を与えるべきだ」と話されました。「大切な人が少しでも長く生きられたら」とも思いますが、「自分ならしたくない治療は、相手も望まない治療なので無理にすることはない」という言葉が胸に響きました。現在 90 歳の認知の母の面倒を見ており、慌てず、自然にその時が来るまでしっかり介護をしていこうと思いました。

ワークセンターフレンズ星崎　境田 るり子

私は 41 歳の自閉症の娘と 93 歳になる母と同居しています。親の看取りと娘の未来両方のことを考えると不安しかありません。本人たちに聞いても返事の難しいことなのでどうしたら良いだろうと考えます。病院に任せる選択もありますが「それは違うのではないか」とも思っていました。「あなたがしてほしくない事は私にもしないで」の言葉が、一番自分に言い聞かせる言葉になりました。　あかつき共同作業所　萩原 浄子

9.30～10.1 きょうされん全国大会 in 東北・いわて 開催！

はじめに

3年ぶりに対面で開催された大会には、ゆたか福祉会から15名の職員が参加しました。入職して1年～3年目の職員が多数参加し、遠く離れた地へ足を運んでの経験は初めての職員ばかり。「その場に身を置く」ことを通じ、どんなことを思い、感じたのか、大会概要と参加した職員の〝声〟、鈴木理事長からのメッセージを紹介します。

陸前高田に足を運んで

今回の開催地は、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市でした。大災害からの復興を遂げ「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」をスローガンに掲げる陸前高田市。1年延期をしての開催となりましたが、現地に足を運び、同市が歩んできた道のりと、その歩みの中で進めてきたまちづくり・地域づくりを、大会を通じて感じることができました。

大会テーマは「ここから つたえ つなぎ あしたを生きる―東日本大震災から11年目の「ありがとう」を全国に。震災の真実と教訓を未来(あした)へつなぐ―」。きょうされん岩手支部を中心として、東北6県の支部がスクラムを組み、準備が進められてきました。

分かちあった笑顔と元気

全国大会を対面で開催するのは第42回愛知大会以来3年ぶり。会場では「久しぶりだね」「元気だった」と語り合う姿が印象的で、たくさんの笑顔と元気を皆さんと一緒に分かちあうことができました。

大会には全国から300名の利用者を含む1400名が参加し、400名の地元ボランティアの皆さんが大会を支えてくれました。きょうされん愛知支部からは、ゆたか福祉会を含め77名が参加。大会の合間には実際に被災地を歩き、復興の様子を実感できたことは、対面開催ならではの生きた学びとなりました。

来年は埼玉で会いましょう！

大会1日目はオープニングの素敵な音楽と、利用者フォーラムの「盛岡さんさ踊り」で盛り上がり、公開特別シンポジウムでは陸前高田市の地域づくりの取り組みが報告されました。

2日目の特別分科会では、この11年の支援活動を振り返り、今後の大規模自然災害への備えを深め合うことができました。南海トラフ地震が懸念される東海地域において、教訓を学ぶことは大きな意義がありました。

来年開催の第46回全国大会は埼玉で行われます。コロナが終息して、たくさんの仲間、家族、職員で集まることができるよう願っています。

きょうされん愛知支部 事務局長
今治 信一郎

参加した職員の〝声〟

リサイクル港作業所　岸野 翼

私は作業所で働いているということで、「働く」をテーマにした分科会に参加してきました。

分科会の中で「仕事が仲間たちにとって、やりがいや生きがいを感じられるものにしていきたい」と話されていたのがとても印象的でした。仲間たちの得意なことに目を向け、その得意なことを活かすことができるような支援をしていくなど、少しでも仲間たちが仕事に対して生きがいややりがいを感じてもらえるようにしてきたいと思いました。

全国大会を通して、分科会以外でも多くのことを学ぶことができました。それを今後に活かしていきたいです。

ゆたか生活支援事業所なるお　鬼頭 晴日

精神障がい部会の分科会に参加しました。東日本大震災後の原発事故により避難を余儀なくされた当事者、支援者、医療者の三名の方より、被災当時から今まで、そして今後の精神医療の展望についてお話がありました。

中でも震災後、医療機関が機能しなくなった為に必要な薬も底をつき、物資の不足などから避難所内の雰囲気も悪化する中での避難生活についてのお話は胸が詰まるような想いがしました。

同時に「自分たちであればどうするのか」、東海地方にもいずれくるであろう震災に向け「何を備えておけば良いのか」を考える機会となりました。

ゆたか通勤寮　美田 亮介

1日目の公開特別シンポジウムでは「〝なってない〟からノーマライゼーションという言葉がいる」「インクルーシブという言葉に置き換わってきた」「当たり前になれば障害のない人にとっても暮らしやすい社会になる」という発言が胸に残りました。

2日目の分科会〝国際交流〟では、香港の社会的企業について紹介があり、福祉分野でのSNS活用事例が印象に残りました。

道中、津波で被災した高齢者施設の廃墟や、奇跡の一本松を目にしました。その光景は震災から11年経った今でもインパクトがあり、今大会とともにとても貴重な体験になりました。

ゆたか生活支援事業所なかがわ　片岡 由加梨

震災から10年が経過した陸前高田はかなり復興しています。ですが震災当時のマンションなどが残っている所もあり、津波の恐ろしさを目の当たりにし、改めて震災が起きた当時のニュースの映像などを思い出しました。

分科会は「暮らし」の分科会を選択し、震災を経験した職員の方のレポートを聞くことがありました。震災が起きたことによって、今まで当たり前に過ごしていた日常が大きく変わったことで、大きな混乱や戸惑いが職員だけでなく利用者さんにもあったのだと改めて学ぶことが出来ました。

研修で感じたことを大切に、仲間へ寄り添った支援をしていきたいと思いました。

みのり共同作業所　齊藤 由香

今回の大会分科会で、私は表現活動を選択しました。震災の映画のモデルにもなった障がい者アートのアーティストでもあるお二人も登壇され、お話を伺う事が出来ました。普段はアート活動だけでなく、わかめの製造作業にも取り組まれているとの事で、きょうされんが大事にしている「働くなかで、たくましく！」を実践されているのだと思いました。

様々な人と関わり、様々な経験をアート作品で表現され、その表現方法が伝わる分科会でした。改めてなかまの気持ちや発信方法、表現方法など考える研修となりました。

きょうされん 全国大会に思う

ゆたか福祉会理事長　きょうされん顧問　鈴木 清覺

今年の大会が東日本大震災の地「岩手・陸前高田」で対面にて開催されることになり、また大きな成功をされたとのお話を聞き、大変喜んでいます。

思えば、きょうされん結成後、第1回大会を東京・代々木で開催してから、欠席することなく参加してきましたが、今回は体調や遠方でもあり、やむなく45回目にして初めて欠席することになりました。

大会はきょうされんの全国の運動の集約の場でもあり、明日への方向を明らかにする場でもあります。きょうされんにとって最大のイベントである大会に、今後も多くの若い人々が参加され、学び交流してほしいと思います。

様々な工夫をしながら 3年ぶりに行事が開催されました！

9/18（日） あかつきまつり

コロナ感染第７波の中、ぎりぎりまで悩み、開催決定をしたのは約１ヶ月前。規模も時間も縮小し、バザー、「夜明け前」の映画上映、子どもコーナー、あかつきのパン販売を行いました。十分な宣伝もできない中でしたが、多くの地域の方が会場に足を運んでくださり「楽しみにしてたよ」の声も聞かれました。

パン販売以外の仲間は、作業所内で「あかつきまつり」。手作りの飾りつけとゲームにお土産付きで大いに盛り上がりました。名芸大の学生さんにもボランティアとして両会場に参加していただきました。　源平 由佳

10/2（日） 大清水福祉センターまつり

「大清水福祉センター」前の公園を会場に

「どのような形なら開催できるか」という前提で検討を続け、９月中旬に開催を決定したセンターまつり。「飲食物の提供はしない」などの制限はある中でしたが、移動動物園の他、家族会や地域の学童クラブにも出店のご協力を頂き、大勢のご家族連れやお子様においでいただいた賑わいのある「まつり」となりました。

「地域から見守って頂いている」ということを大切に、これからも持続可能な形で交流の機会を続けていきたいと思います。 なるみ作業所　須澤 守

10/22（土） みどり･シティ･フェスティバル 2022 in 大高緑地

ゆたか希望の家は、「障害者と区民のつどい」のコーナーに緑障会（緑区障害者関係団体連絡会）の加盟団体として参加しています。

これまでは、焼きそば販売をしてきましたが、今年は飲食の販売はやめて、仲間の自主製品販売をメインに出店しました。

仲間たちが丁寧に作業している様子をパネルで紹介しながら、実際に手にとり、心地よさを体感していただきながら、マットやアクセサリーなどの販売をしました。たくさんの方にご協力いただき、仲間たちの仕事への励みになりました。

岩本 久美子

11/13（日） 南区民まつり in 日本ガイシホール

今年も障がい者と区民のつどい（さわやかウォーク）の開催は見合わせとなりました。南区社協さんと南障会との話し合いを重ね、「区民まつり」で福祉に関わるクイズを解きながら、会場内のポイントをまわる「さわやかクイズラリー」を行いました。

南障会を紹介するパンフレットと共に、加盟団体でつくられた商品も配られ、地域の方々に楽しんでいただくイベントとなりました。形は変わりましたが、地域の方への私たちの活動を知っていただく貴重な機会となりました。南区社協さんに感謝です。

みのり共同作業所　佐藤正章（南障会事務局長）

SDGsの目標をめざそう
～はじまった学びや取り組み～

はじめに

4月に実施した職員アンケート（202名から回収）をもとに、今年7月に『SDGsの取組み、ゆたか福祉会として大事にする目標』が策定されました。これを受け、各事業所や仲間の会でSDGsの目標をめざして学習や取り組みが始まりましたので、連載でご紹介します。

あかつき共同作業所
目標11「住み続けられるまちづくりを」地域を盛り上げる取り組み

紹介するSDGsは”地域“です。コロナ禍の為、法人内で地域への活動ができなくなっている中、作業所ではできることを工夫しながら実行してきました。

以前紹介した映画「星に語りて」の地域上映や、9月にはあかつきまつりを開催しました。嬉しかったのは「あかつきさんがまつりやるなら私たちもやります！」と、10月から他法人や他団体も北名古屋市内で行事を開催する動きが増えたことです。このイベントには、あかつきのパンやクッキーを出店させていただくこともでき、地域のみなさんと会う機会が増えてきました。

また、仲間たち自身が地域とのつながりを感じる機会としては、パン販売や廃品回収、市から委託を受けている常設資源集積場の回収業務などもあります。「パンおいしかったよ～」「いつも廃品ありがとう」「元気な姿に励まされるよ～」と、よく住民の皆さんに声をかけていただきます。そういった言葉が社会とのつながりを実感でき、仲間たちや職員の働く原動力にもつながっているように感じます。

「誰一人取り残されない社会」の実現に向け、私たちにできることは小さいかもしれませんが、実践の中で大切にしてきたことをSDGsの活動と結び付け、仲間たちと一緒に深めていきたいと思います。

佐野 浩之

ベトナムの文化を知ろう！

ゆたか福祉会では、ベトナムから来て一緒に働いている職員さんが増えてきています。「私たちもベトナムのことを知っていこうよ！」ということで、このコーナーをスタートさせます！言葉のこと、食べ物のこと、文化のことなど、これから紹介していきます。

今月の
ベトナム★豆知識
ことば

☆ Xin chào（シン チャオ）
〔丁寧な〕「こんにちは」
朝でも夜でもこの言葉で挨拶できます

☆ Cảm ơn（カム オン）
「ありがとう」

表紙の作者紹介

「私の作ったバケットおいしいよ」

あかつき共同作業所　木村 真悠さん

木村さんがバケットの仕込みに入るようになって4年弱。試作の段階から関わり、今では、人気上位を誇るパンになりました。「美味しく焼きあがりますように」という木村さんの思いは、表紙の絵にも表れています。また、自分の作った生地が商品になり、お客様に喜ばれているという確かな手ごたえが、更なる創作意欲にもつながっています。

この才能は、イルカ班の仕事に一役も二役もかっていて、北名古屋市の庁舎販売で配布するチラシ作りは、ほぼ木村さんが作っています。想像力を活かしたそのチラシは、地域の方々も楽しみにされていて、チラシに付いている値引き券を使用せずに、持ち帰るお客様もいらっしゃいます。木村さんの描く世界を、どうぞお楽しみください！

日誌　10月

1日(土)　第45回きょうされん全国大会 in東北・いわて
4日(火)　名古屋市法人監査
5日(水)　消費税訴訟第1回口頭弁論 / コミュニケーション研修
6日(木)　作業改善ゼミ
10日(月)　常勤及びパート職員研修
13日(木)　事務事業推進会議
14日(金)　新所長研修
17日(月)　事業運営推進会議
18日(火)　フォローアップ研修
19日(水)　広報・ホームページ編集委員会
26日(水)　所長会議
27日(木)　事務担当者研修
28日(金)　きょうされん愛知支部 名古屋市懇談
31日(月)　研修部会議

一般寄附（11月）

順不同 敬称略

トヨタL&F中部株式会社
CSR推進部
一般社団法人愛知県養豚協会
名古屋福祉支援
チャリティーゴルフ

賛助会員新規加入者・更新者ご芳名一覧

（10月20日～11月10日手続き分）
順不同 敬称略

佐藤　よし子
鈴木　剛治
太田　成誓
大浦　光義
小田　康子

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

広報・479号

2022年12月号（2022年12月10日発行）
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 ／ 社会福祉法人ゆたか福祉会
印　　刷 ／ 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 ＝ 年間1口 6,000円、
賛助会員（個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円）

●銀行口座　名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行　柴田支店　普通預金 291-884
・中京銀行　鳴海支店　普通預金 150-425

●郵便振替口座　00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

ゆたか福祉会 事業一覧

一人ひとりが主人公。
みんなの夢が
息づく場所です！

法人本部 ……☎ 052-698-7356

法人本部
ゆたか障害者福祉研究所

名古屋事業本部

ゆたか作業所(南区) …… ☎ 052-692-3531
みのり共同作業所(南区) …… ☎ 052-612-6237
リサイクルみなみ作業所(南区) …… ☎ 052-612-5391
トライズ(南区) …… ☎ 052-825-4022
ふれあい共同作業所(南区) …… ☎ 052-613-2479
ワークセンターフレンズ星崎(南区) …☎ 052-824-4450
なるみ作業所(緑区) …… ☎ 052-878-6921
ゆたか希望の家(緑区) …… ☎ 052-878-6912
つゆはし作業所(中川区) …… ☎ 052-353-3175
リサイクル港作業所(港区) …… ☎ 052-382-1933
みらいろ(港区)…… ☎ 052-382-3200

相談支援事業本部

緑区障害者基幹相談支援センター
　障害者相談支援センターみどり(緑区) ☎ 052-892-6333
　地域活動支援センターしかやま(緑区) ☎ 052-892-6006
ゆたか相談支援事業所どうとく(南区) ☎ 052-692-3539
相談支援事業所ゆたか通勤寮(南区) ☎ 052-611-7789
相談支援事業所ゆたか希望の家(緑区) ☎ 052-878-8776
ゆたか相談支援事業所あおなみ(港区) ☎ 052-382-1991

尾張事業本部

あかつき共同作業所…… ☎ 0568-25-0171
あかつきヘルパーステーションはなキリン
ゆたか生活支援事業所尾張
　ケアホーム徳重 …… ☎ 0568-22-8587
　ケアホーム北野 …… ☎ 0568-68-8844
　ケアホームあかつき …… ☎ 0568-54-2700

福祉村事業本部

第2ゆたか希望の家 …… ☎ 0536-65-0370
グループハウスなぐら
デイサービスなぐら【高齢】
生活サポートセンター名倉【相談】 ☎ 0536-65-0372

名古屋高齢事業本部

ケアサポート宝南
　デイサービス宝南 …… ☎ 052-618-0205
　グループホーム宝南の家 …… ☎ 052-613-5081
　ケアサポート宝南【相談】…… ☎ 052-613-6055

地域支援事業本部

ゆたか通勤寮 …… ☎ 052-611-7781
ライフサポートゆたか【ヘルパー事業所】☎ 052-825-4404
ゆたか生活支援事業所なかがわ
　つゆはし板倉ホーム …… ☎ 052-354-0678
　上脇ホーム …… ☎ 052-352-3266
　あおなみホーム …… ☎ 052-355-9339
　サテライトあおなみ
　ホームみらい …… ☎ 052-383-5580

ゆたか生活支援事業所みなみ
　グループホーム　エール…… ☎ 052-619-6052
　エールⅠ・エールⅡ
　ホームみのり …… ☎ 052-612-9480
　元塩ホーム …… ☎ 052-614-4691
　第二八光荘 …… ☎ 052-612-3986
　まーぶるホーム …… ☎ 052-691-0161

ゆたか生活支援事業所かさでら
　第 1かさでらホーム …… ☎ 052-618-7171
　第 2かさでらホーム
　ひいらぎホーム …… ☎ 052-611-6955
　粕畠ホーム …… ☎ 052-824-9590
　ひろめホーム

ゆたか生活支援事業所なるお
　ほしざきホーム …… ☎ 052-825-4359
　ゆたか鳴尾寮 …… ☎ 052-613-3021
　鳴尾ホーム …… ☎ 052-611-3588
　第一八光荘 …… ☎ 052-614-4345
　わかばホーム …… ☎ 052-614-2785
　あさがおホーム …… ☎ 052-613-5606

ゆたか生活支援事業所みどり
　大清水ケアホーム …… ☎ 052-876-8820
　なるみホームひまわり …… ☎ 052-893-7575
　かきつばたホーム …… ☎ 052-680-7777
　みずひろホーム …… ☎ 052-715-8336

ゆたか生活支援事業所あつた
　第 1ホーム白鳥 …… ☎ 052-671-0067
　第 2ホーム白鳥
　第 3ホーム白鳥
　第 1ゆたかホーム太陽…… ☎ 052-691-4004
　第 2ゆたかホーム太陽
　明治ホーム

その人らしく働く暮らす Vol.106

仲間

「毎日楽しい！～自分で望んだ新しい暮らしへ～」

ゆたか希望の家　前川 奈美さん

養護学校を卒業後、リサイクル港作業所に12年通所していた前川さん。親御さんの調子が悪化してきたため、2006年8月に希望の家に入所されました。

入所時には他の仲間とのトラブルもありましたが、希望の家で過ごす中で、集団で過ごすことやくりのき班で仕事をがんばること、職員とのコミュニケーションを大切にすることができるようになりました。

できることが増え、意欲が高まってきたこともあり、持病等の関係で実現できていなかったグループホーム移行の話がでてきました。前川さんの意志は強く、希望の家でのグループホーム学習会に積極的に参加しました。そして今年度から「相談支援事業所どうとく」で地域移行支援の利用が始まり、ホーム見学・体験を行い、10月からグループホームに入所することになりました。「がんばります！」と決意を固めて、新しい生活に意欲をもって過ごしています。

現在、日中は希望の家で過ごし、くりのき班で作業を頑張っています。「美味しいコーヒーが飲める」「お風呂にゆっくりと入れる」とホームの話をしてくれることもあります。まだ慣れない場所での生活になりますが、新しいスタートを切った前川さんを応援していきたいと思います。

水下 うらら

「玉巻き」頑張ってます！

職員

「愛あふれる支援を忘れずに」

ゆたか作業所　竹内 美也子

私のゆたか福祉会との出会いは、小学生時代にさかのぼります。社会見学で伺い、ゆたか福祉会となかまの皆さんのことを知りました。このご近所に就職することになるとは、当時の私には知る由もありませんでした。就職氷河期で就職活動が難航し、途方に暮れながら求人票を眺めていたところ、ゆたか福祉会の求人を見つけ「あの時の施設じゃん！」とすぐに応募しました。

ゆたか作業所のデイ現場でなかまの皆さんと関わり、希望の家で3年間の調理員経験を重ね「きっちんYutaka」立ち上げに携わるために舞い戻ってきました。新規事業クックチル調理の立ち上げ、調理・栄養士業務となかまの皆さんの就労支援の二本柱の仕事で、「本当にできるのだろうか」と不安を抱えて日々働いています。幸い、クックチル調理も軌道に乗り、なかまの皆さんの就労支援もやればやるほどレベルアップができ、大変ながらも面白さがあります。ここまで頑張って働けたのは、向上心にあふれ、関われば関わるほど慕ってくれ、時にはコソッと相談に来てくださるなかまの皆さんのおかげです。純粋な裏表のない笑顔に何度癒されたか分かりません。

私の仕事は、なかまの皆さんへの愛であふれています。社会情勢や食材費の値上げで思うような食事提供ができずに悔しい思いをすることがありますが、「美味しかったよ」「できるようになったよ」の一言でまた頑張れます。調理・栄養士・就労支援、全てに愛を忘れずに、よりよい支援ができるように精進していきたいと思います。

玉ねぎの皮がきれいにむけているかチェック！「きれいにむけていますね」